



ふえろ〜

イチネン グループ

総合情報誌

第92号

2011年7月1日発行(季刊)

編集

株式会社イチネンホールディングス

社長室

<http://www.ichinenhd.co.jp>

「11年3月期グループ業績及び 12年3月期グループ計画」



グループ予算委員長
株式会社イチネン
代表取締役社長 黒田勝彦

ふえろ〜ご愛読の皆様におかれましては、益々ご健勝の事とお慶び申し上げます。平素は、イチネングループに對しまして格別のご支援、ご協力を賜り心より御礼申し上げます。また、この度の東日本大震災で被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

新しい事業年度(12年3月期)に入って早3ヶ月が経過しましたが、グループの現状についてご報告させていただきます。

1. 11年3月期業績(連結ベース)

売上高 47,258百万円
(前期比 0・3%増)
営業利益 3,148百万円
(前期比 7・0%増)
経常利益 2,768百万円
(前期比 9・7%増)
当期純利益 1,484百万円
(前期比10・8%減)

コア事業であります自動車リース及び自動車メンテナンス受託事業に

おきましては、依然として契約車両の小型化並びに再リース率が更に高まる傾向にありましたが、オートリース会社の買取等の効果により契約高、契約残高共に増加しました。燃料販売事業の主力である自動車用燃料給油カードにおきましては、販売数量は順調に増加し、また、仕切り価格は上昇を機動的に販売価格に転嫁することが出来たことにより、大幅な増収増益となりました。当期純利益におきましては、パーキング用地・建物の減損処理に伴う特別損失の計上、並びに繰延税金資産の一部を取り崩したことに より大幅な減益となりました。

2. 12年3月期利益計画(連結ベース)

売上高 49,000百万円
(前期比 3・7%増)
営業利益 3,200百万円
(前期比 1・6%増)
経常利益 2,830百万円
(前期比 2・2%増)

当期純利益 1,310百万円
(前期比11・8%減)

今後のわが国経済は、東日本大震災の影響から、当面の間、極めて厳しい状況が続くものと思われれます。過去3年間、イチネングループは売上高の減少傾向が続いておりましたが、2011年3月期はこのような状況に歯止めをかけ、僅かではありますが増収に転ずることが出来ました。今期も引き続き売上高拡大を目指してまいります。

自動車リース事業及び自動車メンテナンス事業におきましては、契約台数、契約残高の増加を図ります。また、低年式・走行過多車両の入替を促進しメンテナンスコストの削減に注力し収益向上に努めてまいります。燃料販売事業におきましては、引き続き仕入れ価格に連動した販売価格の改定を機動的に行うことにより適正なマージンを確保してまいります。ケミカル事業におきましては、工業薬品関連では、前期投入しました船舶用新燃料添加剤の納入増、また、製紙業界向けに工程薬品の販売増を見込んでおります。また、海外市場に對しては特に中国、東南アジアのASEAN地域を中心に積極的に営業展開してまいります。パーキング事業におきましては、更なる駐車場の拡大と引き続き不採算駐車場の採算改善を行い収益向上に努めてまいります。更に今年新たに参入しましたカーシェアリング事業を早期に軌道に乗せることを実現してまいります。

これからの倍旧のご支援、ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

以上

TOYO TIRES
driven to perform



よく走り、よく笑う。



走りにしっかり 揺れにしっかり
進化したミニバン専用タイヤ

トランパス・エムピーエフ
NEW **TRANPATH IMPF**

TOYO TIRE & RUBBER CO.,LTD. | <http://toyotires.jp>

月に一度は空気圧の点検を!

新たなグループビジョンとともに、

「前へ、もっと、前へ。」

イチネングループビジョンプロジェクト

イチネンホールディングス 執行役員 道田 浩人

2011年6月25日、イチネングループ社員総会を開催致しました。その席で、グループの新たなビジョンとスローガンを発表致しました。今回は、この新たなグループビジョンとスローガンについてご説明させていただきます。

「最高の品質とサービスで、より多くの顧客に満足を与え、 適正利潤を確保することにより、株主及び従業員に報い且つ社会に奉仕する」

イチネングループの経営理念です。この経営理念を追求し、これから先も変わらず成長・発展し続けるためには、社員全員の力を結集しなければなりません。そのために、会社は社員に次の「3つの約束」をします。

1. 社員と家族の生活を全力で守ります
2. 一生懸命努力する人を応援します
3. 社員と共に挑戦し変化し続けます

3つの約束は、イチネングループという生命体の成長に不可欠な、大気であり、水であり、光です。また、グループ各社の全役員が自ら実践すべき永遠の課題です。

次に、経営理念を具現化するためのグループ共通のビジョンとして、「4つの価値観」を掲げます。

1. 事業を通じて、お客様に便利と感動を提供する
2. 相手の立場に立ち、信頼される人になる
3. 環境の変化に柔軟かつ機動的に対応し、ローコスト経営を徹底追求する
4. 挑戦を是とし、皆がわくわくする自由闊達な風土を育てる

第一の価値観、感動の提供。これはイチネングループの事業ビジョンです。事業を通じて、お客様に便利と感動を提供すること。この概念に合えば、商品・市場などの事業領域は限定せず、どんな商品・サービスでも、国の内外を問わず世界に送り出していきます。

第二の価値観。それは、信頼です。常に全体最適を考え行動し、目先の成果のみにとらわれず、人間的に魅力のある人に成長できるよう、日々努力する。お客様との約束を守り、お客様の期待に応える。これらを実践することで信頼関係を確立すること。イチネングループの社員のあるべき姿と考えます。

第三の価値観。それは変化への対応です。常に改善・改革に挑戦し、ローコスト経営を徹底追求すること。環境の変化に柔軟且つ機動的に対応すること。イチネングループの経営ビジョンです。変化こそ、イチネングループがこれからも変化し続ける核となるものです。

第四の価値観。それは、イチネングループの目指す企業風土です。挑戦せず失敗しない人よりも、例え失敗しても挑戦した人を称える。挑戦を是とし、皆がわくわくする自由闊達な風土を育てること。

そして、この4つの価値観を追求するために、社員は次の「7つの問いかけ」を実践します。

1. あなたの仕事はお客様に感動を与えられましたか？
2. お客様と向き合い、お客様の笑顔を見られましたか？
3. あなたは笑顔で輝いていましたか？
4. 今日は何に挑戦しましたか？
5. 情熱と思いやりをもって仕事をしましたか？
6. まわりの人と対話をしましたか？
7. 成長を実感できましたか？

会社が社員に3つの約束をし、社員は4つの価値観を追及するために7つの問いかけを実践することで、取引先様・株主様との信頼の循環が生まれます。4つの価値観と、グループの経営理念、各社のビジョンを対流させることで、ぶれない「軸」を形成します。

「感動」「信頼」「変化」「挑戦」の4つの価値観を追及するために必要なもの…。それは、失敗を恐れずに、一步前に踏み出す力。困難な状況でも、前向きに考える力。相手を理解し、お客様に近づく力。

前へ、もっと、前へ。

一步前へ踏み出す力、それが新しい歴史を創ります。

これが、イチネングループの新しいスローガンです。イチネングループ全ての社員に共通する心です。つねに挑戦し続ける姿勢です。私たちは、どんなときも、前を向いて行きます。新しいグループビジョンをかかげるイチネングループを、今後とも何卒よろしくご願ひ申し上げます。

東日本大震災について

株式会社イチネンホールディングス
取締役執行役員 木村 平八

平素は、格別のご高配を賜り有難く厚く御礼申し上げます。

先般の東日本大震災で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、被災地の一刻も早い復旧をお祈り申し上げます。

報道によりますと、震災後既に3ヶ月以上経過しているものの、依然として8千人を超える方々が行方不明であり、被災地の復旧にもまだまだ時間がかかるようです。また、今回の震災では、津波被害のほか、原子力発電所の事故も同時に発生しており、かなりの方が、避難所での生活を余儀なくされています。

我々イチネングループと致しましては、従来よりコンプライアンスリスクマネジメント委員会を組織し、その中でリスクを分析し各種リスクに備えてまいりました。中でも、災害リスクに対しては、阪神大震災の経験を踏まえ、「災害対策マニュアル」を作成し、有事の際には「災害対策本部」を設置し対策を講ずることとしておりました。

震災当日には、当社グループ従業員と家族の安否確認を行うのに長時間を要しましたが、幸いにも従業員と家族は全員無事でした。その後、現地情報を収集しながら、東京事務所とTV会議を毎日開催し、現地の状況把握と対応策等について検討を

継続して参りました。しかし、被災があまりにも甚大な為、お取引先様の状況や提携頂いている整備工場様の状況を把握するのは非常に困難でした。そのような中、我々は出来ることから行すべきだと考え、情報収集の他、義援金や支援物資の搬送などの対応について実施致しました。

その後、被災されたお取引先様や整備工場様の状況も判明してまいりましたが、被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。震災から約2ヶ月半経過した5月26日に、仙台市／石巻市周辺を訪問致しましたが、メディアによる報道よりも、実際の被災の大きさに大変驚きました。被災地ではまだまだ不安な時を過ごしているところも多く、実際の被災の大きさに大変驚きました。被災地ではまだまだ不安な時を過ごしているところも多く、実際の被災の大きさに大変驚きました。被災地ではまだまだ不安な時を過ごしているところも多く、実際の被災の大きさに大変驚きました。

我々と致しましては、一刻も早い復旧を心からお祈りするとともに、我々として出来ることを行い、また今回の経験を活かし災害リスクに対する備えを整えていく所存でございます。今後ともご指導の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

以上

第49期定時株主総会

株式会社イチネンホールディングス
社長室 花岡 美也

6月17日開催の第49期定時株主総会には、231名の株主様にご出席を賜り厚く御礼申し上げます。

総会終了後には、「株主懇談会」を開催させていただきました。「経営方針」「今期計画」についてご説明させていただきました。ご出席いただきました株主様には「当社グループの現況」を理解して頂けたと思っております。

当社はこれからも株主重視の経営に努めてまいります。皆様には一層のご指導、ご支援を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

■報告事項

1. 第49期事業報告、連結計算書類並びに会計監査人及び監査役会の連結計算書類監査結果報告の件
2. 第49期計算書類報告の件

■決議事項

- 第1号議案：剰余金の処分の件
本件は、原案のとおり承認可決されました。
- 期末配当金は、1株につき9円と決定いたしました。
- 第2号議案：定款一部変更の件
本件は、原案のとおり承認可決されました。
- 第3号議案：取締役4名選任の件
本件は、原案のとおり黒田雅史、黒田勝彦、影山忠広、木村平八が選任され、就任いたしました。
- 第4号議案：監査役1名選任の件
本件は、原案のとおり川上弘伸が選任され、就任いたしました。

以上



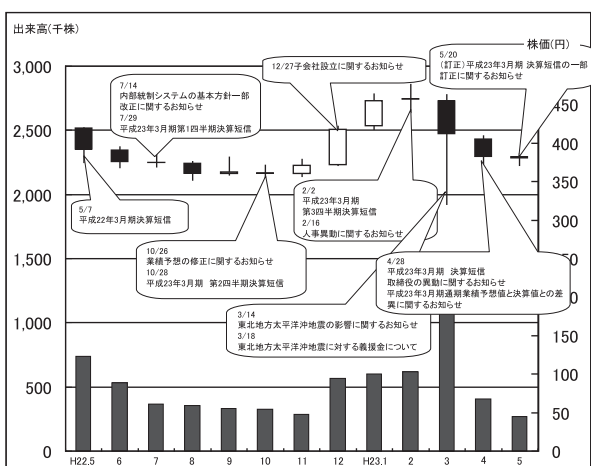
ふえろ 第92号
編集委員長

高添 善臣



プレスリリース

- 2010年 12/27 子会社設立に関するお知らせ
- 2011年 2/16 平成23年3月期 第3四半期決算短信 人事異動に関するお知らせ
- 3/14 東北地方太平洋沖地震の影響に関するお知らせ
- 3/18 東北地方太平洋沖地震に対する義援金について
- 4/28 平成23年3月期 決算短信 取締役の異動に関するお知らせ
- 5/20 平成23年3月期 決算短信の一部訂正に関するお知らせ



わが社のお取引先様

ドコモ・モバイルメディア関西株式会社

当社は1999年にNTTドコモの100%出資子会社として設立し、NTTドコモグループの中でお客様サービスフロント業務を担っている会社であります。モバイル通信の進化と共に、事業環境が目まぐるしく変化し、お客様のニーズも多様化している中、一人ひとりのお客様に、携帯電話を「もっと楽しく、便利に、気持ちよく」使って頂き、「満足」を超える「感動」を感じていただければ、「顧客感動」を念頭にサービスを提供しております。

事業内容としては、1. お客様接点業務（法人のお客様に対するソリューション業務、携帯電話などの商品売買・故障修理など各種受付業務、コールセンター業務）2. ドコモショップ支援業務（ドコモショップなどへの技術支援業務、ドコモショップスタッフなどへの研修業務）です。個人のお客様、法人のお客様と直接関わることでドコモシェア拡大やサービスの向上に努め、お客様が感動されるサービスを追求しております。

2011年5月25日には、スマートフォンをより多くのお客様に快適で便利に、安心してご利用いただけるよう、梅田・神戸・京都の三都市で『ドコモスマートフォンラウンジ』をオープンいたしました。最新のスマートフォンをいち早く展示する他、人気アプリの体験スペースを提供し、お客様のライフスタイルに合わせたスマートフォン活用方法のご提案や、操作方法についてもわかりやすくサポートさせて頂いております。

また、法人営業部門においては、料金コンサルティングによる携帯電話関連のコスト削減提案、スマートフォンを利用したクラウド型グル

プウェアサービス、超高速の次世代通信サービス『Xi（クロッシィ）』でのリモートアクセスサービスなど、ドコモならではの様々なモバイルソリューションを通じて、多岐にわたるお客様の経営課題の解決に貢献しております。

これからも、益々多様化するお客様ニーズにスピードにお応えできるよう、社員一丸となって取り組んでまいります。



【ドコモ・モバイルメディア関西株式会社】

- ◆所在地：大阪市北区梅田 1-11-4
大阪駅前第4ビル14階
- ◆代表者：代表取締役社長 剣持 知明
- ◆設立：1999年10月1日
- ◆資本金：3000万円（2011年5月末現在）

<http://www.docomomm-kan.co.jp/>

ふえろ〜提携工場紹介

(株)宮崎自動車整備工場

弊社は1923年（大正12年）4月に佐賀県伊万里市から当地に於いて宮崎佐太郎が転地し創業致し、その後3年後にメカニック整備も取り入れ自動車専門工場として業をなし、1964年1月に株式会社法人化しました。法人化した頃に現ビルと工場を基盤整備し今日に至ります。

その頃は、また当地の周りは畑ばかりで、当社の屋上から天神の岩田屋ビルまでは遮るものもない風景で有ったと先代より聞かされております。現在は福岡市中央区の真只中に位置し西鉄大牟田線、地下鉄七隈線、各方面のバスの基点発着地として立地し、天神まで徒歩で15分、博多駅まで約20分福岡市の中心部に立地しています。現在では交通アクセスの利便性と都心部に当たる事から当社の周りはマンションばかりになっております。

当社は現在その利便性を生かしてリース車のメンテナンス業務を主たる整備事業の柱に据えた事業を展開しています。現在リース車の受託台数は受託契約先リース会社28社、受託総台数3200台をメンテナンス管理しています。主としてカーリースメンテナンスを柱とした事業展開をしています。イチネン様との取引は当社がメンテナンス業務の一番先駆けとして昭和58年からの付き合い、



を頂き、メンテナンスのイロハからご指導頂きました。もう30年近くになりました。現在は巡回メンテナンス

ナンスカー4台にてお客様の点検管理を実施しています。巡回地域は主として福岡市中心部の為、巡回車が点検出来る車両は工場に引き上げて点検実施をする車両もかなり有ります。立地条件としての地の利を有効活用したメンテナンス管理を実施しています。会社のモットーはお客様目線に立った『親切・丁寧・迅速』を目標設定しお客様、リース会社から信頼される工場を常に目指して努力しています。

現在、点検率を常に100%目指し日々活動しています。イチネン様の昨年度の点検率はなんと100%を達成する事が出来ました。

リーマンショック後の景気の低迷や今回の3月11日の東日本大震災、車の省資源化によるH.V、E.V車への移行、震災の影響下によるリースマーケットの縮小傾向と自動車整備業界に於ける環境は今までに経験した事の無い大変厳しい状況下に成りつつ有ります。

しかし、メンテナンス業務の原点であるCS、お客様第一主義、それは一台、一台御使用に成っているユーザー様、それを管理されているリース会社様の信頼を得る仕事に変わります。当社の今年度の目標はガッツ&チャレンジやる気と挑戦をテーマに取り組んでいます。これからも地域社会に貢献できる企業を目指して取り組んで参ります。

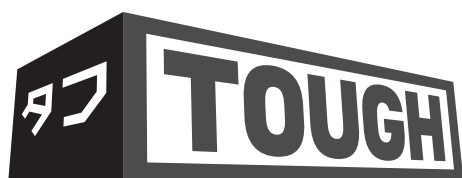
【(株)宮崎自動車整備工場】

- ◆所在地：福岡市中央区白金一丁目18-6
- ◆代表者：代表取締役社長 宮崎広彦
- ◆従業員数：28名
- ◆取引開始：1983年
- ◆委託台数：672台（2011年5月末現在）

代表取締役 宮崎 広彦

あいおいニッセイ同和損保

MS&AD INSURANCE GROUP



タフな安心を、あなたに。

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社 関西金融公務部金融営業課

〒530-8555 大阪市北区西天満 4-15-10 TEL 06-6363-3231

(2010.8)